

道徳年間指導計画

第3学年

…重点目標

	内容項目	[主題名] 教材名 (出典)	主題構成の理由	※ねらい ○発問 ◎中心発問	他の教育活動等との関連	『わたしたちの道徳』 「高知の道徳」 との関連	地域・家庭との連携	評価・ 振り返り
四月 (第二週)	礼儀	[真心を込めて] 1. あいさつをすると (明るい心で)	他者を尊重しながら関わり合い、よいよい社会を築いていくためには、相手への思いやりを示す挨拶を中心とした礼儀は、必要不可欠のものである。礼儀は、人が気持ちよく生活することに必要であることを感じ、真心を持って接することが相手を大切にすることにつながることに気づかせたい。	※あいさつを中心とした礼儀の大切さに気づき、真心をもって接しようとする態度を養う。 ○おばあちゃんやおじいちゃんがあいさつをしているのに、あいさつができないけい子さんをどう思いますか。 ◎「あいさつするとなかよしになれる。」というけれど、みなさんは、あいさつについてどう思いますか。	生活目標 「あいさつをしよう」 「入学式」 「始業式」 国語 「じこしょうかい」	<終末> P. 56、57 を活用する。	保護者・地域の方の参画	教材 ()
四月 (第三週)	節度、節制	[もっとよくなりたいという心] 2. プリントのおうち (みんなのどうとく)	現代のように大変便利な時代になっても、自分の事を自分でできなければ、社会の中で生きていくことは難しい。生活面での自立は、躰面だけでなく、児童自身ができることは自分でやり、きちんとした生活を送ることのすがすがしさを感じさせることが大切である。また、それを持続させ、よりよい自分になりたいという気持ちを育てたい。	※身の回りのことを自分でできることは自分でやり、今よりもっとよくなろうとする気持ちを育てる。 ○プリントがないと気づいた「わたし」は、どんなことを考えただろう。 ◎プリントのおうちの作り方を教えてもらおうと思ったまりちゃんを見て、みんなはどんなことを考えますか。	がっきゅう 「3年生になって」		保護者・地域の方の参画	教材 ()
五月 (第一週)	希望と勇氣、 努力と力強い意志	[めあてにむかって] 3. 一輪車にのれた (明るい心で)	人間が生きていく過程には、いろいろなめあてがある。大きな人生の目標から、日々の生活の中での小さなめあてまでさまざまである。そのめあては、何の障害もなしに達成できることはほとんどない。困難なことに打ち勝ちながら、自分の決めためあてに向かって粘り強くがんばろうという気持ちを持つことが大切である。	※自分でやろうと決めたことに対して、積極的に取り組み、粘り強くやり遂げる気持ちを育てる。 ○何度転んでも練習を続けるゆきちゃんは、どんなことを考えていたのだろう。 ◎あきらめずに乗れるまで何度も練習したゆきちゃんのことを、みんなは、どう思いますか。	算数 「わり算」 音楽 「楽ふとドレミ」 図工 「立ち上がった絵のせかい」	P. 22 を活用する。	保護者・地域の方の参画	教材 ()

五月 (第二週)	親切、 思いやり	[わたしたちにできることは] 4. 耳をおいて出かけられますか (みんなのどうとく)	「思いやり」とは、痛みや苦しみ、悲しみを知り、他人の身の上や気持ちを推察して、いたわり同情することである。人間は、相互の支え合いの中で生きている。この支え合いは、人を愛し、他人を思いやる行為である。街でサポートが必要な障害のある人、老人、幼児などに対して、その胸の内を推し量って、優しく接する態度を育てたい。	※社会の様々な人に対して思いやりの心をもって、自分にできることを実践しようとする態度を育てる。 ○レストランでいやな顔をする人がいた時、えりさは、どんな気持ちだったでしょう。 ◎盲導犬や聴導犬と一緒に生活している人たちのことをどう思いますか。	社会 「わたしたちの市のようす」 図工 「ふんわりふわふわ」 体育 「ラグラグビー」	<終末> P. 63 を活用する	保護者・地域 の方の参画	教材 ()
五月 (第三週)	友情、 信頼	[友だちを信じて] 5. 貝がら (みんなのどうとく)	私たちは誰もが人との関わりの中で生活している。この相互依存の生活の中では、相手を理解し、誠実に接することで信頼関係がつけられる。また、そこで得られた信頼し合える友だちは、自分が困った時にも支えになってくれるものである。	※相手の身になって考え、信頼を深め、困っている時などお互いに助け合おうとする気持ちを育てる。 ○何を聞いても何も話してくれない中山君をぼくはどう思っているか。 ○中山君の言葉を聞いて笑い出した女の子とたちを見て「ぼく」は、どんな気持ちになったか。 ◎中山君が貝がらを持って見舞いに来てくれたのは、どんな気持ちからだろうか。		<終末> P. 70 を活用する	保護者・地域 の方の参画	教材 ()
五月 (第四週)	規則の 尊重	[きまりはなんのために] 6. きまりじゃないか (明るい心で)	きまりは、集団生活を営むうえでなくてはならないものであり、きまりを守り合うことで、集団生活は円滑に営まれていく。決まりを守って生活していくことは、ある意味では、他者への思いやりとも考えられる。きまりを守ること、みんなが安全にそして快適に生活することができるからである。	※きまりを守ることの大切さがわかり、進んできまりを守ろうとする態度を育てる。 ○大助が外に行こうとした時、裕一はどんなことを考えたでしょうか。 ◎小さい声で、「でもきまりじゃないか。」と言った時の裕一は、どんな気持ちだったのでしょうか。	生活目標 「学校のきまりを守ろう」 「交通安全教室」 「避難訓練」	P. 118、119 を活用する。	交通安全教室 保護者・地域 の方の参画	教材 ()

六月 (第一週)	個性の伸長	[自分らしさを生かして] 7. 鬼太郎をかいだゲゲさん (みんなのどうとく)	自分の良さを生かしながら、調和のとれた事故を形成していくことが個性の伸長である。児童が自分らしさを自覚し、どのように生きていくかを考えることに結びつく大変重要な価値である。そして、自分の長所や短所の両面に気付き、よいところは伸ばし、直すべきところは直していくという捉え方が大切である。	※自分らしさを発揮した、水木しげるさんの生き方を通して、自分の良さを一層伸ばそうとする気持ちを育てる。 ○戦争が終わった後、いくらまんがを描いても売れなかった水木さんは、どんなことを考えていたでしょう。 ◎水木さんは、なぜ90歳になってもまんがを描き続けるのだろう。		<終末> P.48を活用する。	保護者・地域の方の参画	教材 ()
六月 (第二週)	生命の尊さ	[たった一つの命] 8. ひじょうベル (うつくしい心)	避難訓練の時を思い出し、非常ベルは、みんなの命を守るために設置されていることに気づき、自分の命を守ろうとする気持ちをもたせる。	※生命の尊さに気づき、かけがえのない生命を大切にしようとする心情を育てる。 ○訓練の放送を聞きたい太は、どんな気持ちだったでしょう。 ◎友達から話を聞きたい太は、どんなことを考えていたでしょう。	理科 「どれぐらい育ったかな」 体育 「うく、泳ぐ運動」 「避難訓練」		消防の方にゲストティーチャーとして、「命の大切さ」について話をしてもらう。 保護者・地域の方の参画	教材 ()
六月 (第三週)	節度、節制	[わがままなおばあさん] 9. 金色の魚 (みんなのどうとく)	だれしも自分の欲求を満たしたいという気持ちは持っているが、独りよがりの我儘は、周りの人々に迷惑をかけることになる。我儘や自分勝手な行動を慎み、節度ある生活することは、社会生活を営むうえで基本的なことである。	※身勝手にわがままな行動や発言を抑制し、周りの人のことも考えた節度ある生活をしよう。 ○おばあさんが、おじいさんを怒った時、どんな気持ちだったのでしょうか。 ○おばあさんは、どんなことを考えながら次から次へと頼みごとを言ったのでしょうか。 ◎また、粗末な小屋に戻ってしまった家の前で、おばあさんはどんな事を考えていたのでしょうか。		<終末> P.10.11	保護者・地域の方の参画	教材 ()
六月 (第四週)	よりよい学校生活、集団生活の充実	[協力し合って楽しい学校、学級を] 10. みんな待っているよ (わたしたちの道徳)	自分たちの学級や学校での生活を支え、励ましてくれる様々な人々に関心を向けて、感謝と敬愛の思いをもつことは、大切である。一人一人が学級や学校のために自分ができることを考え、進んで学級のためのために行動することを通して、自分たちで楽しく充実した生活をつくっていくという態度を養いたい。	※みんなで協力し合って、楽しい学級をつくろうとする態度を育てる。 ○院内学級で「みんな友達だよ」とあさみさんが言った時、わたしはどんな気持ちだったでしょう。 ◎「みんな、待っているよ」と書かれた2通の手紙をもらった時、わたしは、どんなことを考えたでしょう。	総合的な学習の時間 「津野探検① ～学校のまわり～」	P.154～157を読む。	保護者・地域の方の参画	教材 ()

七月 (第一週)	正直、誠実	[せいじつな気持ち] 11.. やくそく (みんなのどうとく)	人が互いに信じ合って生きていくためには、陰ひなたなく、自分の良心に従って、正直で明るく生活することが大切である。うそをついたり、ごまかしたりしないで、自分自身に正直であることの快適さを自覚できるようにする必要がある。また、自分自身の弱さに打ち勝つ強さをもつことにより、明るい生活が実現できることを理解させたい。	※人との約束は守り、明るい気持ちで生活しようとする心を育てる。		<終末> P. 38 を活用する。	保護者・地域の方の参画	教材 ()
				○約束してあったのに破られたとき、どんな気持ちになったか。 ◎男の子の代わりに、女の子がきてくれて、自転車に乗せてもらったとき、きつねはどんな気持ちになったか。				
七月 (第二週)	家族愛、家庭生活の充実	[楽しい家庭] 12. お兄ちゃんだよ (みんなのどうとく)	家庭は、子どもを社会人として成長させるための基盤である。その一員としての役割を積極的に担っていこうとする心構えをもつことが大切である。家族の中で自分が役立つ喜びに気付くようにし協力し合い楽しい家庭を作ろうとする主体的な姿勢を育成したい	※自分が家族にとって大切な一員であることの自覚を深め、楽しい家庭をつくるために積極的な役割を果たそうとする心情を育てる。		〈終末〉で P. 136、137 の 記入してきた メッセージを 活用する。	事前に、「わたしたちの道徳」P. 136、137 に記入してもらう。 保護者・地域の方の参画	教材 ()
				○けんじをおこったことをお母さんにしかられたともやは、どんな気持ちだったでしょう。 ◎けんじをお絵かきに誘った時のともやは、どんなことを考えていたでしょう。				
九月 (第一週)	親切、思いやり	[やさしい心と心] 13. 新幹線で (みんなのどうとく)	思いやりとは、一方的な親切の押しつけではない。相手の心の痛みが分かる心を育て、相手の立場に立って考えさせることが大切である。自分がしてもらってうれしいと感じる親切を、人にもしてあげようと考え、行動できるようにしていきたい。	※相手の気持ち立場を思いやり、進んで親切にしようとする心や相手の親切に感謝できる心を育てる。	ふれあい参観日		ふれあい参観日 保護者・地域の方の参画	教材 ()
				○のぼる君は、おじいさんに新聞紙と紙コップを渡された時、どんなことを思ったでしょう。 ◎のぼる君が、おしたいと思ったのは、どうしてでしょう。				

九月 (第二週)	希望と勇氣、 努力と強い意志	[かがやくじぶんになろう] 14. きっとできる (わたしたちの道徳)	自分でやろうと決めた事を、 頑張ってやり遂げた時、充実 感や喜びを感じることができる。 そのことが、さらに意欲 を引き起こすことにもなる。 自分の目標の達成のために、 困難にぶつかってもあきらめ ず、努力を続けていくこと が、自分のより良い生き方に 通じていくことをつかませたい。	※自分でやろうと決めたことは、粘り強く 最後までやりとげようとする態度を育て る。	「2学期のめあて」 生活目標 「運動会の練習を がんばろう」 算数 「大きい数のしくみ」 「かけ算のひっ(1)」 運動会	P. 26～29 を 読む。 ＜終末＞ P. 22 を活用す る。	運動会 保護者・地域 の方の参画	教材 ()
				○自分の目標を決めようとした尚子はどん なことを考えていたでしょう。 ○大学生の尚子が、つらい練習でも続ける とができたのは、どうしてだろう。 ◎オリンピックで優勝のゴールテープを切 った時、尚子はどんな気持ちになったで しょう。				
九月 (第三週)	善悪の判断 自律 自由と責任	[正しいことは思い切って] 15. あと一言 (みんなのどうとく)	勇氣の本質は、自分が正しい と信じることを敢然として行 い、してはならない不正は断 じて行わない事である。それ は深い思慮の伴った行動であ り、無鉄砲な元気や、乱暴な 行為とは違うものである。	※自分が正しいと思ったことは、誘惑や心 の弱さに負けないで、勇氣をもって実行 しようとする態度を養う。		＜終末＞ P. 30 を活用す る。	保護者・地域 の方の参画	教材 ()
				○「ぼくはやっぱりやめとく。」と断った 時、どんなことを考えていたでしょう。 ◎「えなかったけど、少したりなかったわ ね。」とお母さんに言われた時「ぼく」 は何を考えていたでしょう。				
九月 (第四週)	自然愛護	[自然とのつながり] 16. ケヤキのやさしさ (明るい心で)	自然にふれたりその中で、過 ごしたりすることで、心が落 ち着くことを体験を想起しな がら考えさせ、自然を愛し、 大切にしていこうとする心を 育てていきたい。	※自然のすばらしさや不思議さを感じ取ろ うとする心情を育てる。	図工 「トントンドン くぎうち名人」	＜終末＞ P. 105 を活用 する。	保護者・地域 の方の参画	教材 ()
				○お父さんに「弟のせいにするんじゃない。 」と言われ、外へ飛び出したひろち ゃんは、どんな気持ちだったでしょう。 ○ケヤキの木が水を吸い上げる音を聞いた り虫や木の様子を見たりしながらひろち ゃんはどんなことを考えていたでしょ う。 ◎ケヤキの木そっとやさしくなでながら、 ひろちゃんは、どんなことを考えていた でしょう。				
十月 (第一週)	規則の尊重	[決まりって大切な?] 17. ハッピーマナー (みんなのどうとく)	約束やきまりを守ることにつ いては、小さい時から指導さ れており、何となくその理由 についても理解している。公 共物や公共の場での過ごし方 についても同様である。ここ では、こうした知識をもと に、公德心やきまりの大切さ について、考えさせたい。	※約束や社会のきまりの大切さに気づき、 進んできまりを守って気持ちよく生活し ようとする心情を育てる。	「避難訓練」		保護者・地域 の方の参画	教材 ()
				○すました顔の人を見た時、わたしは、ど んな気持ちになったでしょう。 ○走り出した自動車を見て、わたしは、ど んなことを考えたでしょう。 ◎みんながハッピーになるには、どうした らよいでしょうか。				

十月 (第二週)	礼儀	[相手のことを考えたれいぎ] 18. 失礼おばさん (みんなのどうとく)	人が社会で生活していく上で、礼儀正しくすることは大切なことである。礼儀正しくすることは、他の人を尊重する事につながる。人との関わりにおいて、気持ちの良い礼儀で接する事は、温かく思いやりのある人間関係を作る。あいさつだけでなく、言葉づかい、身なりなど、相手の事を考え、心のこもった礼儀を身につける必要がある。	※互いに気持ちよく過ごすためには、礼儀が必要であることを知り、礼儀正しくしようとする心を育てる。 ○「あいさつ」は、どうして大切なことなのだろうか。 ○おばさんは、どんな気持ちで子どもたちに「しつれいというものよ。」と言い続けているのだろうか。 ◎○礼儀正しくされて、気持ちよかったことを思い出してみよう。	総合的な学習の時間 「津野探検②～津野の自慢をさがせ～」		P56. 57 保護者・地域の方の参画	教材（ ）
十月 (第三週)	公平、公正、社会主義	[分けへだてをしない] 19. 分けへだてをしない (わたしたちの道徳)	何気ない言動に表れる差別や偏見の芽を見逃さないように心掛け、常に相手の気持ちを考えて行動することの大切さを理解させたい。「いじめ」を許さない心と体を育て、よいよい集団やいじめのない風土を醸成したい。	※誰に対しても、公平な立場で接しようとする態度を養う。 ○イラストを見て、いけないと思うことを発表しましょう。 ◎どのように接していくことが大切なのか考えましょう。		P. 179 を参照する。 ＜終末＞ P. 178 を活用する。	保護者・地域の方の参画	教材（ ）
十月 (第四週)	生命の尊さ	[命あるものを大切に] 20. ヒキガエルとロバ (わたしたちの道徳)	人間以外の動物や植物などの存在にも目を向けさせ、それらの動物や植物もまたかけがえのない生命をもち、人間と同じように一生懸命生きていることに気づかせたい。	※ロバの必死な行動を見たアドルフたちの気持ちの変化を通し、生命の尊さを感じ取り生命あるすべてのものを大切にしようとする態度を育てる。 ○アドルフたちは、どんな気持ちでヒキガエルに石を投げたのでしょうか。 ◎遠くに去っていくロバの様子を見ながら、アドルフたちはどんなことを考えていただろう。	国語 「ちいちゃんのかげおくり」 「避難訓練」	P. 96～99 を読む。	保護者・地域の方の参画	教材（ ）
十一月 (第一週)	感謝	[かんしゃする心] 21. かねつきどう (みんなのどうとく)	人間はだれしも、自分一人だけでは生きていけない存在である。したがって、日々の生活は必ず直接的・間接的な他者との助け合い、支え合いの中で成り立っている。また、それは今存在している人だけでなく、先人の努力や功績による部分も少なくない。現在、過去を問わず、そのような人々の努力や功績に気づき、尊敬、感謝の気持ちをもつことは、自分が周りの人々とどうかかわっていくのかを考えていく上で、とても大切なことである。	※自分たちの生活を支えてくれている人々の努力に気づき、感謝しようとする気持ちを育む。 ○あらしの夜、正べえはどんなことを思いながら力いっぱいかねを突き続けたのでしょうか。 ◎かねが町の人にとってなくてはならないものになったとき、まちの人はどんなことを考えていたでしょう。	「収穫祭」 総合的な学習の時間 「津野探検②～津野の自慢をさがせ～」		収穫祭 保護者・地域の方の参画	教材（ ）

十一月 (第二週)	勤労、公共の精神	[人のために] 22. ことぶき園にいったよ (明るい心で)	働くことは、自分の生活のためだけでなく、社会のために役立つことである。家庭や学校、地域の中で、児童なりに役立つことは、たくさんある。そうした、体験をもとに働くことの価値や意義について感得できるようにしたい。	※働くことの大切さを知り、進んで人のために働こうとする心情を育てる。 ○ことぶき園で働いている人の話を聞いて、「わたし」は、どんなことを考えたでしょう。 ◎ことぶき園から帰る時の「わたし」は、どんな気持ちだったでしょう。	社会 「工場で働く人と仕事」	<終末> P. 130、131 を活用する。	保護者・地域の方の参画	教材（ ）
十一月 (第三週)	善悪の判断、自律、自由と責任	[ゆう気を出して] 23. 心ない言葉 (みんなのどうとく)	勇気の本質は、正しいと思うことに対しては、その実現に向けて積極的に関わろうとし不正に対しては敢然と立ち向かおうとする姿である。しかし、人間は弱く、不正から目をそらしてしまったり実行に移せなかったりすることもある。そこで、強い意志＝勇気をもって行動できるよう指導したい。	※正しいと思うことは、勇気をもって行おうとする心情を育てる。 ○あだ名で呼んでほしくないとなかなかいえなかったとき、「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。 ◎「ぼく」は「あだ名で呼ぶのはやめてほしい」とどんな気持ちでいったでしょう。		<終末> P. 31 を活用する。	保護者・地域の方の参画	教材（ ）
十一月 (第四週)	相互理解、寛容	[周りの人となかよくするために] 24. 周りの人ともっと仲よくするために (わたしたちの道徳)	この時期の児童においては自分のもとより相手の立場も理解を示し尊重する態度を重視したい。自分の考えや意見を相手に伝えるときにも相手の意見の背景を考え傾聴することの大切さについて考えさせたい。そのためには、感情的になることなく相手を尊重しようとする態度が求められる	※自分の考えや意見を相手に伝えるとともに相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすることを養う。 ○お互いのことを理解するには、どうすればよいか考えよう。 ◎こんな時、(P. 175 のイラスト) あなたは、どうしますか。		P. 174、175 を参照する。	保護者・地域の方の参画	教材（ ）
十二月 (第一週)	友情、信頼	[みんな友だち] 25. 明るくなった友だち (みんなのどうとく)	自分のことをよく分かってくれている友達がいることで、心が安定し、毎日が楽しくなり、相手のことも分かってあげようとする。助け合い、励まし合う中で、関わりが深くなり、友情・信頼が強くなる。だれとでも仲良くすることの大切さに気づき、助け合ったり、励まし合ったりしようとする心情を育てたい。	※だれとでも仲よくし、助け合おうとする心を育てる。 ○お母さんの言葉が心にささったわたしはどんなことを考えていたでしょう。 ◎すっかりみんなと仲良くなって明るくなった友達を見てどんな気持ちになったでしょう。	理科 「明かりをつけよう」 体育 「ラインサッカー」	<終末> P. 75 「すてきな友達」を歌う。	保護者・地域の方の参画	教材（ ）

十二月 (第二週)	感動、 畏敬の念	[なかまを思う心] 13. 百羽のツル (明るい心で)	人は心にゆとりがあって感性を十分に働かせることができる時に、美しさ、気高さを感じ取る。そのような自分の心の動きに気づくと共に、感動する自分自身を素直に認めながら、美しいもの、気高い者との出会いを大切にしている心情を育んでいきたい。	※仲間にささげる心の気高さ、美しさに感動し、それを大切にしようとする心情を育てる。 ○羽が動かなくなって黙って下へ落ちながら子どものツルはどんなことを考えていたのでしょうか。 ◎九十九羽のツルは、どんな気持ちで子どものツルを助けようとしたのでしょうか。			保護者・地域 の方の参画	教材 ()
			地球という大自然の中でたくさんの動植物が生きている。しかし、環境の悪化などから、絶滅していく種も後をたたない。自然の摂理の中でたくましく生き、種を保存していこうとする動植物の必死さに目を向けることは重要である。同じ地球に暮らす命ある生き物として、自然や動植物を慈しみ、優しい心で受け止め、その成長を見守っていく態度を育みたい。	※自然の中でくらす生き物を慈しみ、見守っていこうとする心情を深める。 ○ゴンちゃんの赤ちゃんが、死んでうまれたことを知った時漁師さんたちはどんな思いだったでしょう。 ◎元気になって太平洋の大自然に帰っていくゴンちゃんを見送る漁師さんたちをみんなはどう思いますか。		<終末> P. 102、103 を活用する。		
十二月 (第三週)	自然愛護	[生きものへのやさしさ] 27. 大自然のお客さん (みんなのどうとく)	善悪の判断はの基準は、相対的であるといえる。また、正しいと判断したとしてもいつでもそれを実行できるわけではなく、自分の心の弱さゆえに実行する際にためらいを感じることもある。後悔しない生き方をするためにも、正しいと判断したことに対して勇気を出すことについて考えさせていきたい。	※太郎の気持ちの変化を考えることを通して、自分自身が正しいと判断したことを勇気をもって行おうとする心情を育てる。 ○太郎が殿様の前に立ちはだかった時、どのような気持ちだったでしょう。 ◎殿様が打つことをやめたのは、どうしてでしょう。			保護者・地域 の方の参画	教材 ()
			善悪の判断はの基準は、相対的であるといえる。また、正しいと判断したとしてもいつでもそれを実行できるわけではなく、自分の心の弱さゆえに実行する際にためらいを感じることもある。後悔しない生き方をするためにも、正しいと判断したことに対して勇気を出すことについて考えさせていきたい。	※太郎の気持ちの変化を考えることを通して、自分自身が正しいと判断したことを勇気をもって行おうとする心情を育てる。 ○太郎が殿様の前に立ちはだかった時、どのような気持ちだったでしょう。 ◎殿様が打つことをやめたのは、どうしてでしょう。		P. 34～37 を読む。 <終末> P. 33 を活用する。		
一月 (第二週)	善悪の判断、 自律、自由と責任	[正しいことは勇気をもって] 28. よわむし太郎 (わたしたちの道徳)						

一月 (第三週)	希望と勇気、 努力と強い意志	[くじけない心] 29. ふるさとの味 土佐文旦 (ふるさとの志)	昨今次々と児童の興味を引く情報が提供される中で、努力しながら一つのことをやり抜こうとする気持ちを育てることは難しい。しかし、耐性にかける児童が多くなっているといわれる今日だからこそ、辛いことを避けようとする弱い心に打ち勝ち、やり抜こうとする心情を育てることは、生きる力を育てるためにも重要なことである。そこで、あきらめずに取り組むことの意義や、今より良くなりたいと願い、努力することの大切さを感じ取らせていくようにしたい。	※自分でやろうと決めたことは、あきらめずに粘り強くより遂げようとする態度を育てる。 ○正憲さんは、文旦の世話を続けている時、どんなことを考えていたでしょう。 ◎一日中お店を歩き回っている正憲さんを見て、あなたはどのように思いますか。	算数 「かけ算の筆(2)」 図工 「まほうのとびらをあけると」 体育 「なわとび」 学級会 「3学期のめあてをきめよう」 総合的な学習の時間 「津野探検③～わたしのおすすめこれが一番～」		保護者・地域 の方の参画	教材 ()
一月 (第四週)	親切、思いやり	[相手の身になって] 30. みんなのお見まい (うつくしい心)	お見舞いカードを書いた時の気持ちを想像しながら、誰に対しても優しく思いやりの心をもって接することの大切さに気づくようにする。	※だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする態度を育てる。 ○校庭で元気にあそんでいる友達の様子をぼんやり見ていたやすお君は、どんなことを考えていたでしょう。 ◎みんなから心のこもったお見舞いのカードを受け取ったやすお君は、どんなことを考えていたでしょう。		「高知の道徳」 ＜終末＞ P.44 を活用する。	保護者・地域 の方の参画	教材 ()
二月 (第一週)	勤労、公共の精神	[みんなのためにできることを] 31. わらじ作り (みんなのどうとく)	人は働くことを通して多くの人と関わりながら生きている。生活の糧を得ると同時に自分の力を社会の中で、生かすことは喜びでもある。このような勤労の意義や尊さを理解させ子どものうちから実践することは、人格形成に大きな影響を与える。自分に何ができるかを考え、実践する態度を育てていきたい。	*二宮金次郎のわらじ作りの話を通して、自分にできることを考え、進んで人の役に立とうとする態度を養う。 ○村人たちが休んでいる間も働いている金次郎はどんなことを考えていたでしょう。 ◎村人たちに感謝された金次郎はどんなことを考えたでしょう。	生活目標 「自分の係の仕事をがんばろう」	「高知の道徳」 ＜終末＞ P.54 を活用する。	保護者・地域 の方の参画	教材 ()

二月 (第二週)	友情、信頼	[ほんとうの友達] 32. なかよしだから (明るい心で)	友情を深めていくには、単に「仲良くすること」にとどまることなく、助け合うこと、励まし合うこと、教え合うことなどに加えて、特に注意し合うことに重点をおいて、考えさせる。真の友達関係を築くためにも互いの悪いところを注意し合い、教え合う態度を身に付けさせたい。そのことが友達を大切にすることにつながりたい。	※友達のことよく考えて、友達を大切にしようとする態度を養う。 ○朝、宿題を忘れたことに気づいた時、ぼくは、どんなことを考えたでしょう。 ○実君に「だめだよ。自分でやれよ。」と断られた時、ぼくは、どんな気持ちだったでしょう。 ◎実君の考えがわかってきたぼくは、どんなことを考えていたでしょう。	算数 「棒グラフと表」 理科 「つくってあそぼう」 「学習発表会」		学習発表会 保護者・地域の方の参画	教材（ ）
二月 (第三週)	礼儀	[礼儀正しい振る舞い] 33. 言葉のまほう (3年生のどうとく)	礼儀とは、人間尊重の精神を基盤として相手の立場を思いやり尊重する心が形となって表れたものである。礼儀正しい振る舞いが互いの気持ちをよくし楽しく生活する上で大事なことであることを理解し真心をもって接しようとする態度を身に付けていきたい。	※礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接しようとする心情を育てる。 ○相手の子にどなられ、にらみつけられた「ぼく」は、家に帰りながらどんなことを考えたでしょう。 ◎はっとした「ぼく」は、どんなことに気づいたのでしょうか。		<終末> P. 56、57 を活用する。	保護者・地域の方の参画	教材（ ）
三月 (第一週)	国際理解、国際親善	[日本のよさ・外国のよさ] 34. ぼくのおべんとう (明るい心で)	それぞれの国には、日本と同じように、独自の伝統や文化があり、それを誇りに思い、大切にしていることを理解させたい。その際に、児童がこれまでにもっているわが国の伝統と文化に対する親しみと重ね合わせてながら理解させていきたい。	※日本のよさを知ることで、他国の人々や文化に関心をもとうとする心を育てる。 ○ジョンにからかわれた時の「ぼく」は、どんな気持ちだったでしょう。 ○ジョンの「おいしい」という言葉を聞いて「ぼく」は、どんなことを考えたでしょう。 ◎外国のよいところについて考えましょう。			保護者・地域の方の参画	教材（ ）

三月（第二週）	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する心	〔郷土を愛するところ〕 35. 心の花たば （みんなのどうとく）	自己の人間形成にとって、自分の育った郷土の影響は、大変大きなものである。その大切な郷土、また自分の生活する地域とのかかわりは、近年薄くなる一方であり、郷土に対する意識も、低くなってきている。これは個人だけでなく、社会全体にとって精神的な支えとなる一つの柱を失うことになるだろう。そこで、自分の郷土のよさや大切さを見直し、みんなで郷土を愛する心を持つことが、謝意全体の幸福につながることに気づかせたい。	※郷土のよさを見つめ、自分の暮らす郷土を愛し、よりよくしていこうとする心を育てる。 ○おじいさんはどんな気持ちで町のいろいろな所に花の種をまいたのか。 ○春、花でいっぱいになった町を見て、おじいさんはどんな気持ちになったか。 ◎おじいさんが亡くなっても次の年の春に花いっぱいになった町を見て、町の人たちが花を育てていこうと思ったのはなぜでしょう。		＜導入＞ P. 158、159 の文章と地域の写真を電子黒板に映す。	地域の方にゲストティーチャーとして、地域のために活動していることについて話してもらう。 保護者・地域の方の参画	教材（ ）
---------	--------------------	---	---	---	--	--	---	-------